

データヘルス計画の概要

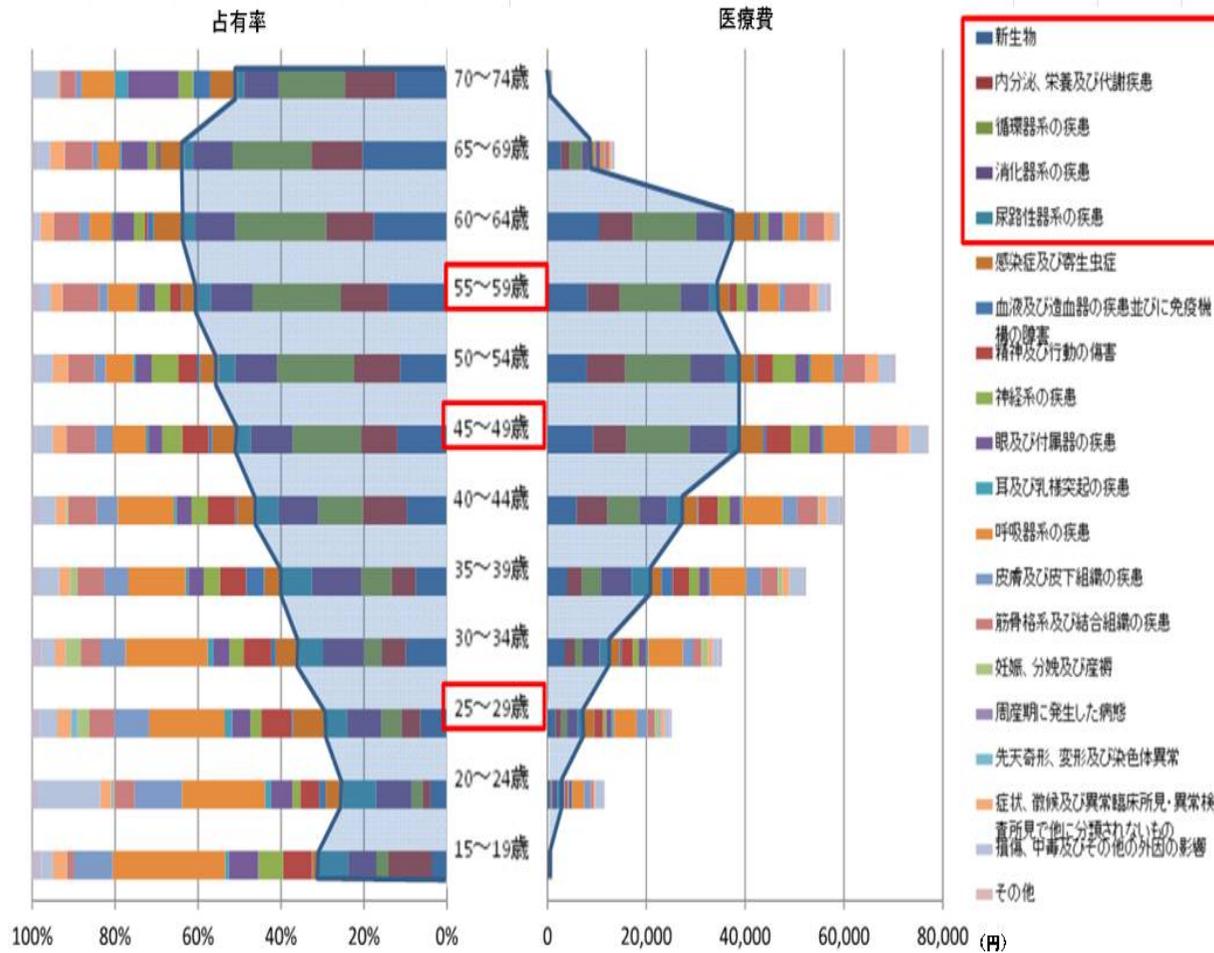
(第1期 平成27年度～29年度)

平成27年4月1日

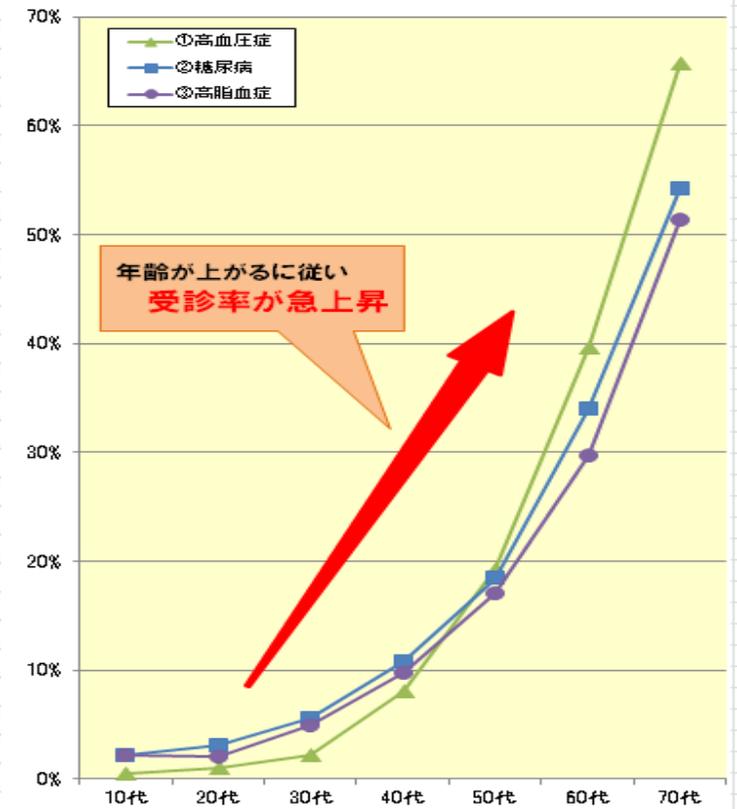
トッパングループ健康保険組合

当健保組合の健康課題（医療費分析）

1. 生活習慣病受診割合



被保険者の生活習慣病受診割合



- 被保険者の生活習慣病受診者数は、「高血圧症」、「糖尿病」、「高脂血症」の割合が多い。
- 年齢階層別では、50代を中心に受診者数が多くなっており、また年齢階層別の加入者割合で比較すると年齢が上がるに従い受診者数の割合も増加している。

- 生活習慣病関連の疾病が加齢とともに大幅に増加している。
- 生活習慣病関連疾病の占有率は25～29歳で約29%であるが、45～49歳で約50%、55～59歳で約60%まで増加している。

当健保組合の健康課題（健診分析）

35歳以上被保険者の主な特定健診項目の受診勧奨値を超える人数と割合

		BMI 25以上	血圧（拡張期） 90以上	血圧（収縮期） 140以上	中性脂肪 300以上	HDLコレステロール 34以下	LDLコレステロール 140以上	空腹時血糖 126以上	喫煙あり
H20	割合	26.0%	10.4%	10.5%	3.9%	1.5%	28.1%	4.7%	41.5%
H21	割合	27.2%	10.5%	10.7%	3.8%	1.4%	26.5%	4.7%	43.1%
H22	割合	27.8%	11.0%	10.7%	3.7%	1.3%	27.9%	4.9%	41.3%
H23	割合	28.5%	10.5%	9.9%	3.7%	1.3%	25.1%	4.9%	38.4%
H24	割合	28.5%	10.2%	9.5%	3.6%	1.7%	24.8%	4.9%	38.5%
H25	割合	28.8%	10.5%	9.4%	3.4%	1.7%	26.0%	4.9%	38.4%
H22年度全国平均		25.4%	12.5%	18.7%	3.4%	1.0%	29.4%	5.9%	20.1%

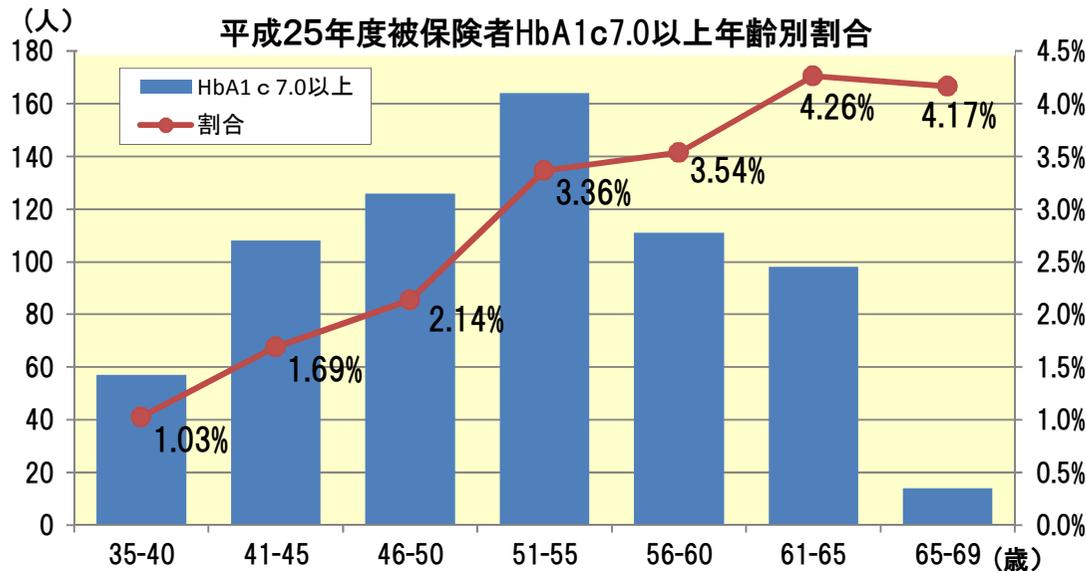
- 平成20年度と比べ平成25年度では血圧（収縮期）が140mmHg以上の方は1%減、LDLコレステロールが140mg/dl以上の方は3.3%の減と改善傾向にあり、全国平均値よりも下回っている。
- 喫煙者は平成20年度から5年間で3%減となっている。

当健保組合の健康課題（健診分析）

平成25年度被保険者の血糖値検査結果(HbA1c7.0以上)

受診者	HbA1c 7.0以上		内 訳			
			HbA1c 7.0~7.9		HbA1c 8.0以上	
28,498	678	2.4%	379	1.3%	299	1.1%
未治療者	187	27.6%	110	29.0%	77	25.8%

※未治療は問診時に治療していると申告していない人



糖尿病危険度	正常値	保健指導を受けて早めの対応を	糖尿病が否定できない	糖尿病が強く疑われる
HbA1c(%)	5.5以下	5.6~6.4	6.5~6.9	7.0以上

平成24-25年度血糖値検査結果(HbA1c7.0以上)

平成24年度 HbA1c7.0未満	平成25年度 HbA1c7.0以上	割合
4,622人	159人	3.4%
未治療者	72人	45.3%

<内訳>

年齢	平成24年度 HbA1c7.0未満	平成25年度 HbA1c7.0以上	
		人数	割合
35-39	367人	13人	3.5%
40-44	725人	25人	3.4%
45-49	913人	31人	3.4%
50-54	1,056人	48人	4.5%
55-59	763人	16人	2.1%
60-64	694人	23人	3.3%
65-69	98人	3人	3.1%
計	4,616人	159人	3.4%

- 健診時のHbA1cの値が高値にもかかわらず未治療の187名は、通院等で数値がコントロールされているかの確認が必要となる。
- 年齢別みると45歳を超えたあたりから数値が上がる傾向にあり、新たに7.0以上のなった人の割合は50歳から54歳が多くなっており、その年代の数値を抑えることと、その前段階で生活習慣を改善しHbA1cの値の上昇を防ぎ糖尿病にならないようにしなければならない。

現状分析から見える課題

40 歳代からの生活習慣病のリスクが増加。30 歳代から予防し、将来の生活習慣病のリスクを低減させる。

要治療者で診療所や医療機関を受診していない方がいる。企業のリスクマネジメントの観点からも対応の必要性がある。

生活習慣病は年々増加傾向にあり、健診結果を参考に生活習慣の改善をはかることで重症化を予防する。

生活習慣病の中でも特に糖尿病が多くなっており、治療が高度化・高額化する糖尿病性腎症や人工透析に移行させない対策が必要。

課題解決に向けた方向性

- ①35 歳未満の健診データを事業所と共有
- ②35～39 歳の特定保健指導の強化

- ①事業所での診療所や医療機関の受診指導
- ②専門医の紹介や保健指導等の実施

- ①事業所における健康づくり活動の強化
- ②健診および保健指導の受診率向上
- ③健康情報の提供や KENPOS の活用

- ①糖尿病重症化予防対策の実施
- ②歯科検診の強化と歯周病の予防・治療

(1) 糖尿病腎症予防事業

糖尿病性腎症や人工透析への移行回避を目的に、重症化するリスクの高い、未受診者に対する支援を行う。HbA1cの値が8.0以上の人に対して早期に医療機関への受診勧奨の実施、栄養指導、歯周病治療勧奨等を実施。

(2) 適正受診対策

糖尿病で通院する患者のうち、重症化するリスクの高い者に対して通院確認、栄養指導を行う。また、受診中断者を医療に結びつけるとともに、かかりつけ医と連携しながら自己管理できるよう啓発を実施。

(3) 受診勧奨対策

重症化リスク前（HbA1c値6.5～7.9）の数値の方に対し、早期に医療機関への受診勧奨することにより、糖尿病の早期発見・治療を行う。

(4) 特定保健指導

メタボリックシンドロームの予防・解消に重点をおいた、生活習慣病予防のための保健指導の受診の徹底を行う。

(5) 生活習慣改善活動（トッパングループGENKIプログラム）

健康促進プログラム「KENPOS」を活用した健康づくりを行うことで、継続的な健康管理や生活習慣の改善を目指す。

データヘルス計画実施フロー

発症予防

- ・生活習慣病予防
- ・啓発活動

早期発見・治療

- ・進展防止のための適正管理
- ・肥満者等ハイリスク対策
- ・自己中断対策

重症化・合併症管理

- ・合併症の進展防止
- ・合併症の早期発見、早期治療、予防
- ・自己中断対策

